英和 和英 生化学用語辞典

第2版

日本生化学会編

英和 和英 生化学用語辞典

第２版

東京化学同人

第1版 第1刷 1987年10月 1日 発行
第2版 第1刷 2001年10月24日 発行

英和 和英 生化学用語辞典（第2版）

© 2001

編　集　社団法人 日本生化学会

発行者　小 澤 美 奈 子

発　行　株式会社 東京化学同人
東京都文京区千石3丁目36-7（〒112-0011）
電話 03-3946-5311・FAX 03-3946-5316
URL： http：//www. tkd-pbl. com/

印 刷　ショウワドウ・イープレス(株)
製 本　株式会社 松 岳 社

Printed in Japan　ISBN4-8079-0549-X

序

本書は日本生化学会の活動の一環として編集された生化学に関する英和·和英用語辞典である．初版は1987年に，学会創立60周年記念事業の一つとして出版された．実際の編集作業は，学会から指名を受けた香川靖雄委員長以下の編集委員会が，それに先だって出版された“生化学辞典”に収録された用語を基礎として見出し用語の選定を行ったものであった．

以来，15年近い時間が経過し，その間に“生化学辞典”は2度にわたる大改訂が行われた．学問の進展に伴いつくられた新しい用語が収録されたことはいうまでもない．逆に，使われなくなった用語は削除されている．同様に，“生化学用語辞典”も改訂の必要が生じてきたことは誰の目にも明らかであった．このような状況を勘案して，平成11年度日本生化学会理事会に本書の改訂をすべきであるむねの進言があり，これを受けて理事会は編集委員会を設置した．編集委員会は直ちに編集作業を開始した．しかし，初版出版以降の学問の進歩を反映して収録すべき新語が多いため，改訂作業は難航し長時日を必要とした．幸い，関連各位の協力のお陰でここに“改訂版”の上梓に至ったものである．

本書刊行の目的は初版と変わらない．急速な進展を見せる生化学関連諸分野の標準用語を定めることである．特に生化学のようないくつもの学部にまたがる学際性の強い学問領域においては，用語の規格化は教育上も研究上も不可欠である．初版が果たしてきたように，第2版も，大学院の入試にあたって，論文や解説の執筆にあたって，教科書の執筆や翻訳にあたって，あるいはデータベースの検索にあたって幅広く活用していただきたい．

第2版の用語選定にあたっても，初版と同様に“生化学辞典（第3版）”を基礎としたが，さらに生化学，分子生物学に関する多数の教科書，参考書，文献を参照して，特に新しい用語を加えるよう努力した．その一方で，不要と思われる用語を削除した．最終的には，収録用語は英和·和英各約14,700語に上った．また，初版と同じように重要な用語には簡単な解説を

加えた．本書を標準用語集として用いるにも用語解説が備わっている方が便利であり，また，本書を簡便な“小辞典”としても利用できるように配慮したからである．しかし，執筆時の使用や持ち運びに便利なようなサイズに納めるには解説が2～3行を超えることは許されない．当然，このような“一口解説”は正確さを欠くことがある可能性は否めない．用語の意味が知りたいときは，ぜひ本書と姉妹関係にある“生化学辞典（第3版）”（東京化学同人刊）を参照していただきたい．

最後に，刊行にあたり全面的なご支援をいただいた東京化学同人に感謝したい．本書の刊行は学会の事業とはいえ，編集，出版は同社の全面的な協力なしには不可能であった．特に，小澤美奈子社長，編集部の住田六連氏，井野未央子さんに感謝したい．

2001年9月

編集委員会を代表して

大　島　泰　郎

生化学用語辞典（第2版）編集委員会

編集委員長

大 島 泰 郎　東京薬科大学生命科学部 教授，理学博士

編 集 委 員

石 浦 章 一　東京大学大学院総合文化研究科 教授，理学博士

石 川 冬 木　東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授，医学博士

脊 山 洋 右　お茶の水女子大学生活科学部 教授，医学博士

田之倉 優　東京大学大学院農学生命科学研究科 教授，理学博士

生化学用語辞典（第1版）編集委員会

編集委員長

香　川　靖　雄

編集委員

石　村　　巽　　大　島　泰　郎

須　田　立　雄　　脊　山　洋　右

凡　　例

第Ⅰ部　英　和

1) 語の配列は原則としてアルファベット順とした.

2) 二語以上からなる語は語の区切りを無視して全体を一語として読んで配列した.

例: **allosteric enzyme**	→	allostericenzyme	として配列
in vitro	→	invitro	として配列

3) 数字で始まる語,語中に数字を含む語は,原則として数字を無視して配列した.

例: **T4 phage**	→	tphage	として配列
3T3 cell	→	tcell	として配列

4) ウムラウト(¨),アクサン(´)などは配列上無視した.

5) 化合物の異性体や結合位置などを表すD-,L-,*N*-,*O*-,*S*-,*o*-,*m*-,*p*-,α-,β-,γ-などはこれを無視して配列した.

例: **γ-aminobutyric acid**	→	aminobutyricacid	として配列
***p*-chloromercuribenzoic acid**	→	chloromercuribenzoicacid	として配列

6) ギリシャ文字の接頭記号をもつ語のうち,α rays (α 線),β-structure (β 構造) などのようにギリシャ文字を無視しては意味をなさない語については α はAの,β はBの最初に配列した.他のギリシャ文字についても同様の読み換え(下記)に従って配列した.

α	β	γ	δ	ε	ζ	η	θ	κ	λ	μ	ν	π	ρ	σ	τ	Φ,ϕ	χ	Ψ,ψ	Ω,ω
A	B	G	D	E	Z	E	T	K	L	M	N	P	R	S	T	P	C	P	O

7) 日本語訳を二つ以上あげた場合には,推奨する語を第一位に掲げた.

第一位に掲げた語は,原則として"文部省学術用語集"および各学会で用いられている用語(おもなものは下記)に従った.ただし,学会によって異なるもの,慣用と著しく異なるものなどは慣用に従った.

文部省	学術用語集	化 学 編(増訂2版)	日本化学会
文部省	学術用語集	遺伝学編(増訂版)	日本遺伝学会
文部省	学術用語集	動物学編(増訂版)	日本動物学会
文部省	学術用語集	植物学編(増訂版)	日本植物学会
文部省	学術用語集	薬 学 編	日本薬学会

医学用語辞典(第２版)　日本医学会
微生物学用語集(第４版)　日本細菌学会

8) 化合物名の日本語表記は，原則として，日本化学会 標準化専門委員会 化合物命名小委員会による「化合物命名法」に従った．仮名書きの字訳規準も同会の規準(下記)によった．ただし，化合物以外のものは必ずしもこの規準によっていない．

化合物名の字訳規準表

(子音字)	字訳 A. 子音字とそれに続く母音字との組合わせ (母音字) a	i, y	u	e	o	B. 子音字 同じ子音字がつぎに来る時	他の子音字がつぎに来る時，または単語末尾の時	備考
	ア	イ	ウ	エ	オ			子音字と組合わせられていない母音字
b	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	促†	ブ	
c	カ	シ	ク	セ	コ	促	ク*	*ch=k；ch, k, qu の前の c は促音；scは別項
d	ダ	ジ	ズ	デ	ド	促	ド	
f	ファ	フィ	フ	フェ	ホ	*	フ	*ff=f；pf=p
g	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	促	グ	gh=g
h	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	—	長†	sh, th は別項；ch=k；gh=g；ph=f；rh, rrh=r
j	ジャ	ジ	ジュ	ジェ	ジョ	—	ジュ	
k	カ	キ	ク	ケ	コ	促	ク	
l	ラ	リ	ル	レ	ロ	*	ル	*ll=l
m	マ	ミ	ム	メ	モ	ン	ム*	*b, f, p, pf, ph の前の m はン
n	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ン	ン	
p	パ	ピ	プ	ペ	ポ	促	プ*	*pf=p, ph=f
qu	クア	キ	—	クエ	クオ	—	—	
r	ラ	リ	ル	レ	ロ	*	ル*	*rr, rh, rrh=r
s	サ	シ	ス	セ	ソ	促	ス*	*sc, sh は別項
sc	スカ	シ	スク	セ	スコ	—	スク	
sh	シャ	シ	シュ	シェ	ショ	—	シュ	
t	タ	チ	ツ	テ	ト	促	ト*	*th は別項
th	タ	チ	ツ	テ	ト	—	ト	
v	バ	ビ	ブ	ベ	ボ	—	ブ	
w	ワ	ウィ	ウ	ウェ	ウォ	—	ウ	
x	キサ	キシ	キス	キセ	キソ	—	キス	
y	ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ	—	*	*この場合は母音字
z	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ	促	ズ	

† 「促」は促音化(例：saccharin サッカリン)，「長」は長音化(例：prehnitene プレーニテン)

9) 同じ英語に異なる内容の日本語訳がある場合には，1)，2) … でこれを区別した．

例：　**albumen**　1) 卵白，2) 胚乳【植物】

10) 用語が限定された範囲内で使用されている場合には，【　】内にその範囲を示した．

例：　**annealing**　アニーリング【DNAの】

11) [　] 内は省略してもよいものを示す．

例：　**[e]icosapentaenoic acid**　[エ]イコサペンタエン酸

12) 〖　〗の使用

a．常用漢字以外の漢字で読みが難しいもの，常用漢字ではあるが読みが常用漢字音訓以外のもの，および読みがまぎらわしいものには〖　〗内にその読みを付した．

例：　萎〖い〗縮　肉芽〖げ〗腫　対〖たい〗合

b．また常用漢字の制約により仮名を用いた語のうち，意味のわかりにくいものに対しては〖　〗内にその漢字を併記した．

例：　さい〖鰓〗後体　やく〖葯〗培養

c．略号，記号などで慣用的な読みをもつものはこれを〖　〗内に示した．

例：　*lac*〖ラック〗オペロン　CAM〖カム〗植物

13) 同 は記号の後の語が見出し語と同義であることを示す．

14) ⇀ は記号の後の語が見出し語と同義であり，より推奨される用語であることを示す．略号のあとの ⇀ は，⇀ の後ろの正式名が別項目として起きていることを示す．

15) 略 の後に略号を示した．略号の使用の際は定義して用いることが望ましい．

16) 常用漢字以外の漢字使用

医学用語などをより適切に表すために，常用漢字以外であっても下記のような漢字を使用した．また，仮名文字表記としたが，仮名文字表記だけでは意味がわかりにくい場合には〖　〗の中に該当する漢字を示した．

萎〖い〗	閾〖いき，しきい〗		咽〖いん〗	嘔〖おう〗
顆〖か〗	窩〖か〗	牙〖が〗	かい〖潰〗	咳〖がい〗
蓋〖がい〗	がい〖骸〗	がく〖顎〗	鎌〖かま〗	灌〖かん〗
鉗〖かん〗	桿〖かん〗	かん〖癇〗	がん〖癌〗	拮〖きつ〗
嗅〖きゅう〗	棘〖きょく〗	きん〖禽〗	腔〖くう，こう〗	
けい〖頸〗	けい〖痙〗	隙〖げき〗	けた〖桁〗	げつ〖齧〗
けん〖瞼〗	けん〖腱〗	勾〖こう〗	亢〖こう〗	膠〖こう〗
肛〖こう〗	胱〖こう〗	虹〖こう〗	こう〖垢〗	こう〖睾〗

痕〖こん〗	こん〖昏〗	さ〖渣〗	窄〖さく〗	さつ〖紮〗
弛〖し〗	餌〖じ〗	しつ〖悉〗	腫〖しゅ〗	絨〖じゅう〗
粥〖しゅく〗	漿〖しょう〗	鞘〖しょう〗	梢〖しょう〗	しょう〖鬆〗
蝕〖しょく〗	疹〖しん〗	腎〖じん〗	じん〖靱〗	須〖す〗
膵〖すい〗	錐〖すい〗	すう〖芻〗	醒〖せい〗	せき〖蹠〗
脊〖せき〗	せん〖閃〗	腺〖せん〗	穿〖せん〗	尖〖せん〗
せん〖癬〗	ぜん〖喘〗	疽〖そ〗	そ〖鼠〗	そう〖瘡〗
そく〖塞〗	汰〖た〗	唾〖だ〗	だ〖楕〗	苔〖たい〗
疸〖たん〗	たん〖耽〗	蝶〖ちょう〗	椎〖つい〗	でき〖溺〗
塡〖てん〗	てん〖癲〗	と〖屠〗	淘〖とう〗	貪〖どん〗
ねん〖稔〗	膿〖のう〗	嚢〖のう〗	播〖は〗	は〖爬〗
胚〖はい〗	汎〖はん〗	斑〖はん〗	痺〖ひ〗	ひ〖脾〗
び〖糜〗	ふく〖輻〗	糞〖ふん〗	ふん〖吻〗	餅〖へい〗
へい〖蔽〗	へん〖扁〗	べん〖鞭〗	ほ〖哺〗	疱〖ほう〗
呆〖ほう〗	旁〖ぼう〗	膀〖ぼう〗	ぼう〖貌〗	やく〖葯〗
瘍〖よう〗	よう，さなぎ〖蛹〗		菱〖りょう〗	れん〖攣〗
沪〖ろ〗	ろう〖狼〗	わい〖矮〗		

17）用語の解説について

適当な訳語がないために外来語を字訳しただけの用語は，漢字用語に比べて意味がわかりにくい．これらの用語を中心に簡潔な説明を加えた．今回の改訂では，漢字用語であっても専門的で意味がわかりにくいもの，場合によって使い分けが必要なものなどを中心に解説を補充した．

第Ⅱ部 和 英

1）見出し語の配列は五十音順とした．長音符号（ー）は無視して配列した．

2）見出し語中に含まれる数字は，イチ，ニ，サン，ヨン… などと読んで配列した．

例：**H-2 抗原**　エッチニコウゲン（エッチツーコウゲン としない）
　　T4 ファージ　ティーヨンファージ（ティーフォーファージ としない）

3）見出し語につづく数字は 英和の部 におけるその語の記載ページを示す．a は左欄，b は右欄を示す．

第Ⅰ部 英　　和

A

α-action　α作用：カテコールアミンのホルモン作用のうちα受容体を介して起こる作用．α_1，α_2作用の二つがある．
α amanitin　αアマニチン：キノコ毒でRNAポリメラーゼⅡおよびⅢ阻害剤．
α_1-antitrypsin　α_1-アンチトリプシン　略 α_1-AT
α_1-AT ⇀ α_1-antitrypsinの略．
α-blockade　α遮断：α受容体の阻害．
α decay　α崩壊：ヘリウム原子核を放出する原子の壊変．
α factor　α因子：酵母の有性生殖時の接合型変換機構にかかわる因子．
α-fetoprotein　αフェトプロテイン：胎児性タンパク質の一種．肝がん患者の血清中にも出現する．　略 AFP
α-helix　αヘリックス，αらせん：天然のタンパク質ペプチドがとるらせん構造．
α hemolysin　α溶血素　同 α toxin（α溶血毒），α staphylolysin（αスタフィロリシン）
α lactalbumin　αラクトアルブミン
α lipoprotein　αリポタンパク質 ⇀ high-density lipoprotein
α motoneuron　α運動ニューロン：骨格筋繊維支配ニューロン．
α oxidation　α酸化：脂肪酸の2位の酸化．同 one carbon degradation（一炭素分解）
α rays　α線，α粒子線
α-receptor　α受容体，αレセプター：アドレナリン受容体のうちイソプロテレノールに低感受性のもの．　同 adrenergic α-receptor（アドレナリンα受容体）
α sarcin　αサルシン：八連球菌より分離されたタンパク質性毒素．60Sリボソームを不活性化し，タンパク質合成を阻害する．
α staphylolysin　αスタフィロリシン ⇀ α hemolysin
α toxin　α溶血毒 ⇀ α hemolysin
A ⇀ adenosineの略．
A ⇀ alanineの略．
2-AAF ⇀ 2-acetylaminofluoreneの略．
AAV ⇀ adeno-associated virusの略．
A band　A帯：横紋筋横縞の異方性(複屈折性)を示す部分．ミオシン存在部．同 anisotropic band（異方性帯）
ABC family transporter　ABCファミリー輸送体：ABCはATP binding cassetteの略．その名が示すようにATPを必要とし，ATP結合サブユニット，基質結合サブユニットなどから成る膜タンパク質複合体．代表的な輸送機構の一つ．
abdominal cavity　腹腔
aberrant　異常[な]，異所[の]
aberrant form　異常型
abetalipoproteinemia　無βリポタンパク質血症
abiogenesis　偶然発生
abiogenic organic material　非生物原有機物【宇宙生物などの】：生物なしに形成された有機物．
abiotic synthesis　非生物合成，無生命合成：生命誕生以前の有機物合成．
ablation　切除，アブレーション
***abl* gene**　*abl*〚エブル〛遺伝子：がん遺伝子の一種，産物はチロシンキナーゼ．
abnormal sensation ⇀ paresthesia
ABO blood group ⇀ ABO blood type
ABO blood type　ABO式血液型　同 ABO blood group
abortion　流産
abortive infection　不ねん〚稔〛感染，不発感染
abscisic acid　アブシシン酸，アブシジン酸：植物ホルモンの一種．成長抑制作用をもつ．
abscissa　横軸，横座標
absolute　絶対[の]，無水[の]，無条件[の]，無制限[の]
absolute configuration　絶対[立体]配置：不斉炭素を含む光学異性体の不斉炭素原子に結合している置換基の配置のこと．
absolute refractory period　絶対不応期：一度神経や筋を興奮させた後いかに強く刺激しても興奮を起こさない時期．
absolute temperature　絶対温度：熱力学的温

度.

absorbance 吸光度：記号 *A*. 溶液の光吸収の強さを示す量. 同 optical density (OD, 光学密度，光学濃度)

absorbed dose 吸収線量

absorption 吸収

absorption band 吸収バンド，吸収帯

absorption coefficient 吸収係数

absorption maximum 吸収極大

absorption minimum 吸収極小

absorption spectrum 吸収スペクトル

abstinence 禁断症状 同withdrawal symptoms

abundant 豊富な，…に富んだ

abzyme 抗体酵素，アブザイム：抗体の特異的認識能を利用した人工酵素．反応の遷移状態化合物に対するモノクロナール抗体を利用.

Ac ⇀ acetyl の略.

acanthocytosis 有棘〘きょく〙赤血球症

ACAT：acyl-CoA-cholesterol acyltransferase の略.

acatalasemia 無カタラーゼ血症 同 acatalasia (無カタラーゼ症)

acatalasia 無カタラーゼ症 ⇀ acatalasemia

accelerated 促進的[な]

accelerator 1) 促進因子，2) 促進体，3) 促進剤，4) 加速器

acceptor 受容体【電子などの】，アクセプター

acceptor control 受容体制御

acceptor site 受容部位：特にプレ mRNA のスプライシング反応において，イントロンの 3′末端とエキソンとの境界をさす.

accessory 付属[の]，補助[の]，副次的[な]

accessory cell 1) 補助細胞【免疫反応における】，2) 卵付属細胞，付属細胞，3) 副室

accessory pigment 補助色素

acclimation 順化

accuracy 正確さ，精度

ACD solution ACD 液：acid citrate dextrose solution の略．抗凝固性血液保存液.

ACE ⇀ angiotensin converting enzyme の略.

ACES ⇀ *N*-(2-acetamide)-2-aminoethanesulfonic acid の略.

acetal アセタール

acetaldehyde アセトアルデヒド

***N*-(2-acetamide)-2-aminoethanesulfonic acid** *N*-(2-アセトアミド)-2-アミノエタンスルホン酸：グッドの緩衝液用試薬. 略 ACES

acetaminophen アセトアミノフェン：解熱鎮痛薬の一種．アニリン誘導体.

acetanilide アセトアニリド

acetate 酢酸イオン，酢酸塩

acetic acid 酢酸

acetic acid bacterium 酢酸[細]菌 同 acetic bacterium

acetic acid fermentation 酢酸発酵

acetic anhydride 無水酢酸

acetic bacterium ⇀ acetic acid bacterium

acetoacetic acid アセト酢酸：β-ケト酪酸.

acetoacetyl-CoA アセトアセチル CoA

acetoin アセトイン：アセチルメチルカルビトール，ジメチルケトール.

acetolysis アセトリシス：アセチル化して分解すること.

acetone アセトン 同 propanone (プロパノン)

acetone body アセトン体 ⇀ ketone body

acetone-butanol fermentation アセトン-ブタノール発酵：アセトンとブタノールの両者が生成される発酵形式.

acetone-dried preparation アセトン乾燥標品

acetone powder アセトン粉末：生物試料を冷アセトンで脱水，乾燥粉末としたもの.

acetone precipitation アセトン沈殿

acetonitrile アセトニトリル

acetyl アセチル【基】：CH_3CO- 略 Ac

2-acetylaminofluorene 2-アセチルアミノフルオレン：がん原性芳香族アミン. 略 2-AAF

acetylation アセチル化

acetylcholine アセチルコリン：神経伝達物質の一種. 略 ACh

acetylcholine receptor アセチルコリン受容体

acetylcholinergic アセチルコリン作動性[の] ⇀ cholinergic

acetylcholinesterase アセチルコリンエステラーゼ：シナプスに存在し，神経伝達物質アセチルコリンを分解する. 同 specific cholinesterase (特異的コリンエステラーゼ)

acetyl-CoA アセチル CoA：糖質，脂質，タンパク質の中心的な中間代謝産物. 同 acetyl-coenzyme A (アセチル補酵素 A)

acetyl-coenzyme A アセチル補酵素 A ⇀ acetyl-CoA

acetylene アセチレン
***N*-acetylglucosamine** *N*-アセチルグルコサミン 略 GlcNAc
acetylsalicylic acid アセチルサリチル酸 ⇀ aspirin
acetyltransferase アセチルトランスフェラーゼ，アセチル基転移酵素 同 transacetylase（トランスアセチラーゼ）
acetyl value アセチル価：油脂中のヒドロキシ基量を示す値．アセチル化して測る．
ACh ⇀ acetylcholine の略．
achiral アキラル［な］：分子の構造に対称性があること．
achromatin 不染色質：細胞核内の非染色質．
A-chromosome A染色体：B-chromosome を参照．
achylia gastrica 胃液欠乏症
aciclovir ⇀ acyclovir
acid 酸
acid-ammonia ligase 酸-アンモニアリガーゼ：ATP などを使ってアミド化を行う酵素．同 amide synthetase（アミドシンテターゼ）
acid anhydride 酸無水物：酸2分子が水1分子を失って縮合した化合物．
acid-base catalyst 酸塩基触媒
acid-base equilibrium 酸塩基平衡
acid-base indicator 酸塩基指示薬 同 pH indicator（pH 指示薬），hydrogen ion indicator（水素イオン指示薬），neutralization indicator（中和指示薬）
acid casein 酸カゼイン：乳から pH 4.6 で沈殿するリンタンパク質．おもに α カゼインから成る．
acid catalyst 酸触媒
acid chloride 酸塩化物，酸クロリド：カルボキシ基の OH を Cl で置換した化合物．塩化アシル．
acid-fast 抗酸性［の］，（染色後）酸にあっても色のさめない
acid-fast bacterium 抗酸菌，抗酸細菌：結核菌など．
acid hydrazide 酸ヒドラジド ⇀ hydrazide
acidic amino acid 酸性アミノ酸：グルタミン酸とアスパラギン酸の総称．
acidic fibroblast growth factor 酸性繊維芽細胞増殖因子：fibroblast growth factor を参照．略 aFGF
acidify 酸性にする
acidity 酸性度：酸の強度．
acidity index 酸性度指数：pK_a 値のこと．
acidophil 好酸性細胞
acidophil[e] 好酸性［の］【細菌など】：1)酸性環境下で好んで微生物が生存すること．2)エオシンなどの酸性色素で組織，細胞が好染されること．同 acidophilic, acidophilous
acidophilic ⇀ acidophil[e]
acidophilic bacterium 好酸性細菌：acidophil[e] を参照．
acidophilic leukocyte ⇀ eosinophil
acidophilous ⇀ acidophil[e]
acidosis アシドーシス，酸性症：血液が pH 7.4 以下に偏った状態．
acid phosphatase 酸性ホスファターゼ：酸性に最適 pH をもつホスファターゼ．
acid protease 酸性プロテアーゼ ⇀ aspartic protease
acid value 酸価：油脂中の遊離脂肪酸量を示す値．
acinar cell 腺房細胞：特に膵臓にある膵液分泌細胞．
acinous gland 房状腺
acinus (*pl.* acini) 腺房
aconitase アコニターゼ：*cis*-アコニット酸をクエン酸とイソクエン酸に変換する酵素．クエン酸回路の主要酵素の一つ．活性中心に鉄-硫黄クラスターを含む．
aconitic acid アコニット酸
aconitine アコニチン：トリカブトに含まれる有毒ジテルペンアルカロイド．心臓毒の一種．
aconitum alkaloid トリカブトアルカロイド
ACP ⇀ acyl carrier protein の略．
acquired immune deficiency syndrome 後天性免疫不全症候群：性行為，輸血などで感染する HIV による T 細胞の疾患．同 AIDS（エイズ）
acquired immunity 獲得免疫，後天性免疫
acquired resistance 獲得抵抗性
acquired tolerance 獲得寛容，後天的寛容
acquisition 獲得
acridine アクリジン：誘導体に生物活性をもつものが多く，アクリジン色素と総称される．
acridine dye アクリジン色素：DNA 塩基対間に挿入しやすくフレームシフト突然変異を誘起する．抗マラリア剤．殺菌剤．
acridine orange アクリジンオレンジ
acriflavine アクリフラビン：フレームシフト

突然変異原物質. 回 tripaflavin(トリパフラビン)
acrolein test アクロレイン試験: グリセロールの鋭敏な検出反応. 脱水産物であるアクロレイン呈色反応と刺激臭による.
acromegaly 末端肥大症, 先端巨大症
acrosin アクロシン: ほ乳類の精子の先体に存在するプロテアーゼ.
acrosomal cap 先体帽 ⇀ acrosome
acrosome 先体, アクロソーム: 精子細胞の先端. 回 acrosomal cap(先体帽)
acrosome reaction 先体反応
acrylamide アクリルアミド: CH_2=$CHCONH_2$. ポリアクリルアミドゲルの原料.
ACTH ⇀ adrenocorticotrop[h]ic hormone の略.
actin アクチン: 筋肉の主要タンパク質の一種. 細い繊維を形成しミオシンと反応して収縮現象を起こす.
actin filament アクチンフィラメント: アクチンによって形成される細い繊維.
actinic 光活性化[の], 光化学線[作用][の]
actinidine アクチニジン: マタタビに含まれるモノテルペンアルカロイド.
actinin アクチニン: αとβがある. αアクチニンはアクチンフィラメントの支持にかかわり, βアクチニンはアクチンキャッピングタンパク質.
actin-myosin complex アクチン-ミオシン複合体
actinogelin アクチノゲリン: 筋肉以外の細胞に広く分布するFアクチン結合タンパク質で, アクチンを架橋してゲル化を起こす Ca^{2+} 依存のヘテロ二量体.
Actinomyces アクチノミセス, 放線菌: 非運動性, 非抗酸性のグラム陽性桿菌.
actinomycin D アクチノマイシン D: RNA 合成阻害に働く抗生物質.
actin-tropomyosin complex アクチン-トロポミオシン複合体
action current 活動電流: 細胞の興奮によるイオン電流.
action potential 活動電位: 細胞の興奮による一過性の電位変化.
action spectrum 作用スペクトル: 光合成や視覚などの光化学反応速度を波長に対してプロットしたもの.
actithiazic acid アクチチアジン酸: チアゾリドン抗生物質の代表.
activated cross section 放射化断面積: 中性子などを照射して放射性核種をつくる核反応の断面積.
activated factor Ⅱ 活性化Ⅱ因子 ⇀ thrombin
activated sleep 賦活睡眠 ⇀ REM sleep
activated sludge process 活性汚泥法: 微生物による有機廃棄物処理法.
activation 活性化【触媒や酵素などの】
activation analysis ⇀ radioactivation analysis
activation center ⇀ active center
activation energy 活性化エネルギー: ある反応の遷移状態に移るために必要なエネルギーのこと.
activation enthalpy 活性化エンタルピー【化学反応の】
activation entropy 活性化エントロピー
activator 活性化物質, 活性化因子, 活性化剤
active 活性[の], 能動的[な]
active anaphylaxis 能動アナフィラキシー
active carbon 活性炭: 高い吸着能をもつ炭素. 回 active charcoal
active center 活性中心: 酵素活性の発現に中心的な役割を果たす部位. 回 activation center
active charcoal ⇀ active carbon
active immunity 能動免疫
active methionine 活性メチオニン ⇀ *S*-adenosylmethionine
active oxygen 活性酸素: 酸素の誘導体で細胞毒性がある. スーパーオキシド, 過酸化水素, ヒドロキシルラジカル, 一重項酸素, オゾンなど.
active permeation 能動透過 ⇀ active transport
active site 活性部位: 活性中心よりは若干漠然とした部位をさす. 調節部位に対する言葉.
active sulfate 活性硫酸 ⇀ 3′-phosphoadenylyl sulfate
active transport 能動輸送, 活性輸送 回 active permeation(能動透過)
activin アクチビン: TGF-βスーパーファミリーに属する増殖因子の一つ.
activity 1) 活性【酵素などの】, 2)活量, 活動度: 溶媒, 溶質の熱力学的実効濃度. 3)活動